

教育・保育目標	支え合い認め合う ささはらっこ 弾む心で 未来へつなごう
重点目標	夢中になって遊び込むには～一人一人の“やってみたい”を深く読み取るう

項目	重点項目	現在取り組んでいるところ	達成目標・具体的施策	年度末評価	学校関係者評価
学びの場である保育の充実	「愛情」を基盤とした自己肯定感の構築	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが自分は大切にされていると感じられるように認める言葉をかけたりスキンシップを図ったりして、一人一人に愛情深く応答的に関わっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 全職員が保育に関わる保育者として意識をもって子ども達と関わり、応答的なやりとりを行う。 子どもへの言葉かけや関わり方で気づいたことを職員同士で伝え合うようにしている。 保護者アンケートにおいて「お子さんは様々な保育者と関わっている。」と回答した人の割合が85%以上になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員一人一人が、子どもへの愛情をもって関わり、応答的にやりとりをしている。 子どもへの言葉かけや関わり方で自らの関わりを振り返り、他の職員と共有して保育に活かしている。また、気づいたことがあった時には、随時声を掛け合い、接し方について振り返ることができるようになっている。 保護者アンケートより「お子さんは様々な職員と挨拶や言葉を交わす等関わっていると感じる」と回答した人の割合が91%であり、目標を達成することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員間で子どもの姿を共有できていることが良いと思う。 集団の中でも個人を丁寧に見てくれていると感じる。送迎時に学年、クラスが違う先生から声をかけられると保護者はよく見てくれていると感じている。 声かけの中でも挨拶はコミュニケーションの基礎になるため大事だと思う。重点的にお願いしたい。 職員同士の意見交換は大事である。全職員に広げてほしい。
	資質・能力を育む保育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 乳児、幼児共に週一回、子どもの姿を職員間で共有し、共通理解を図っている。また、子どもの姿や発達に応じたカリキュラム作成や環境構成に取り組んでいる。 一人一人の“やってみたい”を深く読み取るために、資質・能力3つの柱をもとに語り合うようにしている。 幼児は子どもの姿をもとに月一回、夢中になって遊びこめる園庭の環境を再構成している。また園内環境について話し合っている。また、園内環境を子どもの姿に応じて随時、見直したり再構成をしたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「こども園は心を弾ませられるような環境を整えている。」の肯定的回答の割合が85%以上になる。 乳児は、週1回のクラス会議の中でクラス全員の前期、後期の子どもの姿からの読みとりを行う。 幼児は、週1～2回の棟会議で子どもの姿や遊びの読み取りを行う。 会議での話し合いを基に随時環境の再構成を行っている。 夢中になって遊べる環境になるように、乳幼児ともに随時、情報交換を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「こども園は心を弾ませられるような環境を整えている。」の肯定的回答の割合が86.9%であり、目標を達成することができた。 乳児は週1回、個別で子どもの姿の読み取りを行った。また、幼児は週1、2回棟ごとに子どもの姿を読み取った。多角的に見たり発達を捉えた環境を構成したりすることができている。 幼児は月1回程度環境についての会議を行い、乳児・幼児間で情報交換を行い、夢中になって遊びこめる環境を整えられた。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの姿を読み取るという言葉が多く出てきたことから子どもの姿を大事にしていると感じた。 子どものやりたいを大いに受け入れてくれていると感じている。家では試行錯誤ができるまでの遊びは難しいため園で実現してもらえて感謝している。 家ではできない製作や次の日を楽しみにできるような遊びを子どもが園で行っていることが嬉しい。
	ちがいを認め合える仲間作り	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人が自分の思いを伝えられるように年齢に応じた関わりを心がけている。 異年齢での関わりが生まれるような保育室の配置や保育室・園庭の環境を整えている。 乳児と幼児が関わりながら様々な子どもがクラスを超えて遊ぶことを大切にしている。 職員同士が思いを伝え合い、互いに認め合うことができるよう心がけている。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の思いを受け止め安心して気持ちを表現できるようにしている。 個々の姿に応じて相手の気持ちに気づけるように関わったり仲立ちをしたりしている。 「お子さんはこども園で思いやりを育てている。」の項目で肯定的回答の項目が85%以上になる。 「こども園は異年齢の関わりが持ちやすい保育環境である。」の項目で肯定的回答の項目が85%以上になる。 それぞれの会議等で、保育者が自分の思いを伝え合う場を設け、一人一人の子どもについて把握したり、環境を整えるための情報を交換できるようにしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の思いを聞き、受け止めていくことで自分の思いを出して遊びを楽しむ姿につながっている。 保育者が子どもの姿を読み取り関わり方の共通理解を図った。子供同士が互いの思いに気づき、相手の話を聞こうとする姿につながった。 乳児と幼児が遊びの真似をしたり一緒に遊んだりする姿が増え継続して遊ぶ様子が見られた。 「お子さんはこども園で思いやりを育てている。」の項目で肯定的回答の項目が91%と目標が達成できた。 「こども園は異年齢の関わりが持ちやすい保育環境である。」の項目で肯定的回答の項目が98%と目標が達成できた。 保育や会議の中で様々な立場の職員が自分の思いを出せるような場を設けて、積極的に発信をし合えるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 異年齢児が混合で遊んでいることが良い。保育室に壁がなく、異年齢についてのアンケート結果の数値が高いため今後も継続してほしい。 保育室の壁がないことが園の強みであると感じる。普段から異年齢児と関わることで子ども自身が自分より幼い園児を見て、成長を感じたり思いやりを見せたりする姿に繋がっていると感じている。 子どもの今後を考えた際、関わるのは同年齢だけでないため幼児期から異年齢の関わりをもてるのが良いと思う。
	健やかな体の育成	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の栽培を行い、調理の職員に調理してもらい旬の食材を味わう機会を作っている。 旬の食材や地産地消の食材に関する掲示をし、検食ケースを見て保護者との会話が弾んでいる。 『ほけんの話』などの保健指導を通して健康や生活習慣について知る機会をつくっている。 身体を動かす心地良さを感じられるような環境や用具、遊具を用意し子どもがすすんで身体を動かす機会を作っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 調理の職員が旬の食材や地産地消に関する掲示を年4回以上行っている。また、子ども達に話をする機会を設けている。 『ほけんの話』などの保健指導で健康や生活習慣についての話を年齢に応じて年5回以上行う。また保育システム（icuco）の『ほけんだより』『こどもだより』を通して、保護者啓発を行う。 園庭、屋上園庭、遊戯室など様々な場を活用して子どもが積極的に体を動かせるような機会を作る。また、健やかな体作りができる環境について学年ごとに年3回程度話し合う機会をもつ。 日頃の生活の中でも体の使い方（座り方・立って靴を履く等）が意識できるように発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各クラスで野菜の栽培を行い、収穫した野菜を食べる機会を設けた。また、5歳児は収穫したサツマイモで2度クッキングを行った。調理の職員がアジの3枚おろしの実演や旬の食材の表示等を行った。 『ほけんの話』などの保健指導を年に10回以上行った。指導の様子を保育システム（icuco）の『ほけんだより』『こどもだより』などを通して、保護者啓発を行った。 健やかな体作りができる環境について、学年ごとや乳児・幼児ごとに年3回以上話し合った。 日頃の生活の中で体の使い方（座り方・立って靴を履く等）が意識できるように子どもへの声かけを行った。今後掲示物などを用いて積極的に発信していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健室の先生に保健の話をしてもらうことで子どもの意識にも変化が見られていた。 園で楽しみながら野菜を育てたことで興味をもち、地域の畑やスーパーで野菜を見ると、葉の形から種類を推測し、食べてみようとする姿に繋がっていた。 窓から調理室を見ることができランクルームの環境が良い。調理の様子や調理前の様々な食材が見られるのも貴重な経験ではないか。 畑を広げ、「育てて調理する」という経験が沢山もてると良いと思う。
保育者の資質向上	職員研修園内研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議・クラス会議（乳児）、棟会議（幼児）などで今年度の研究テーマをもとにワークシートを使って子どもの姿の読み取りの機会を設けている。また、語り合う中で、環境の再構成にも活かしている。 園内研修の年間計画を立てている。 園外の研修にも積極的に参加するようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の研究テーマをもとにワークシートを使って子どもの姿の読み取りの機会を月2回以上設ける。少人数で教育・保育を振り返り環境の再構成、実践に活かしている。 講師を招聘した園内研修の機会を年2回以上もち、得た学びを実践に活かす。 年齢別研修、他園の園内研修や視察や幼児教育研修会等、園外の研修に参加し園内で情報を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各会議で子どもの姿の読み取りの機会を設け、学んだことを職員間で共有している。また、「会議や研修で学んだことを自園の教育・保育に活かしている」と回答した職員の割合が90%に達している。 講師を招聘した園内研修で年2回以上学ぶ機会をもつことができた。 園外研修など情報共有のツールとして、回覧や各会議などで情報共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員が学んでいることが保護者に伝わらないことがもったいないと感じる。 今後も研修などは計画を持って様々な職員が参加できるようにしていただきたい。

<p>保育者の資質向上</p>	<p>チーム保育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児は週1回の棟会議において写真を用いて読みとりをし、子どもの姿から今何に心を弾ませているのか、どのような学びに繋がっているのかを捉え、子ども理解に繋げると共に保育者間で共有し環境の再構成に活かしている。 ・乳児は子ども一人につき年2回の読みとりをクラス会議において行っている。話し合いを通して様々な意見を聞き、多角的に子どもの姿を見ている。 ・保育教諭以外を含めて全ての職員が保育者として子ども達と関わり気づきを共有できるよう職員間の話し合いの機会を大切にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児、乳児共に週1回以上は会議等語り合う機会をもち意見交換することを通してコミュニケーションを深めながら、意思疎通に努める。また保育教諭以外も含め全職員での語り合いの機会を昨年同様、年3回以上も円滑な園運営に繋がるようにする。また会議の場に限らず、子どもの様子や保育の内容等、気づいた時に声を掛け合い情報交換する。 ・幼児の環境構成における変化・変更は会議や掲示物等で確実に全員が把握、共有し同じ意識で教育保育を進められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児、乳児共に週1回以上は会議等語り合う機会をもつ、という目標は達成できた。また昨年度の評議員会でアドバイスいただいたように、改めて会議の場を設定せずとも必要な時にわずかな時間であっても声を掛け合い意見や情報交換、共有をするということも実践するように意識している。 ・全職員での語り合いの機会を今後も大切に、直接保育に関わらない職種の職員であっても保育者と捉えていること、チームの一員として保育するという意識をより浸透させていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職場の環境が良いことでお互い気持ち良く働くことができる。今後も風通しの良い環境を目指してほしい。 ・気づいた時には、立ったまま短時間であっても、すぐに集まって話をできる環境が良いと思う。
<p>開かれ信頼される園づくり</p>	<p>園情報の発信</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児は保護者に子どもの様子を保育システム (icuco) で毎日配信している。また、その日の遊びの姿の個人写真を月1回発信している。 ・幼児は子どもの遊びの様子を保育システムを用いて『こどもだより』で週1回、個人の遊びの姿の写真を2か月に1回発信している。 ・ホームページや動画、写真を発信する際は、個人情報に十分配慮して取り組んでいる。 ・ささはらこども園の日々の子どもの様子や園の取り組みなどを地域の方に伝えられる方法を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き子どもの遊びの様子を保育システム (icuco) にて、乳児はその日の遊びの個人写真を月1回、幼児は2か月に1回発信する。また、幼児は子どもの遊びの様子を『こどもだより』にて週1回発信する。 ・子どもの日々の様子や保育者との関わり、園の情報をホームページで月2回、保育システムを用いて動画を月1回発信する。 ・掲示板を活用し、子どもの製作物等を用いて遊びの場が伝わるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページは月2回以上、動画は年間100本以上配信することができた。 ・「こども園は icuco (連絡帳、こどもだより、動画配信等) を活用してお子さんの園での様子や成長を発信したり共有したりしている。」の項目で肯定的回答の項目が87%以上に達している。 ・昨年度の評議員会のアドバイスを基に掲示板に子どもの製作物や地域のお知らせを掲示した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの「こども園は保育参加参観や懇談などでお子さんの園での様子を知る機会をもっている。」の項目で肯定的回答が全体と比較して少し低いように思うがどうか。 ・日々の生活については、子ども一人一人を丁寧に読み取って保育を行ってくださっている。 ・生活にメリハリのつく行事がないことが上記のアンケート結果につながっているのではないと思う。事前準備や保育計画の大変さ、行事に捉われがちにならないか等懸念もあるが、クラスや学年の皆で一つのことをする経験や人前に立つ経験を幼児期にできると良いと思う。
	<p>小学校との接続</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校接続の架け橋期の担当者を中心に研修参加に努めている。引き続き、教育・保育が小学校教育にどのように繋がっていくのかを考え、担当者間で共有している。全職員に発信し、日々の教育・保育に繋がるようにする。 ・笹を取りに行ったり校庭に行ったりするなど、小学校へ足を運ぶ機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保小の架け橋プログラムの研修や近隣の小学校教諭との情報交換を年5回以上行う。 ・子どもの育ちと学びの連続性を、研修を通して小学校と共有していく。 ・接続担当者を中心に、研修で学んだことを職員会議や回覧を用いて園内で共有していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保小の架け橋プログラムの研修や小学校教諭との情報交換を5回以上行うことができた。 ・子ども達が小学校に行った経験から、見たり知ったりしたことを遊びに繋げ、就学への期待が高まった。今後も、子ども達が関わっていくことができる機会をもてるよう密に連携をとっていきたい。 ・“学びの芽 (遊びの中に学びがある)” に焦点を当てた動画やドキュメンテーションを作成し、部会を通して就学前教育について知ってもらうことが出来た。今後も動画等を用いて互いの教育・保育内容について学び合い、なめらかな接続と教職員の学びに繋げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校へ行く機会 (経験する・見る) が大事であると考えため継続してほしい。小学校では遅刻などの問題があるため就学前の段階で対応できることを考えてほしい。 ・子ども達だけでの通学に心配もあるため就学前に交通ルールを教えてもらえて良かった。 ・用意や身の回りのことを子ども自身ができるように自主性を育ててほしい。就学前に就学後のイメージが持てるよよいのではないかと。5歳児のグループ活動や担当制が良いと思う。 ・保護者も学校のことを知らない不安になる。 ・学校でも失敗から学ぶ試行錯誤の大切さを伝えている。園でもそんな経験からの成功体験を重ねてもらえると嬉しい。
<p>地域交流 子育て支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・笹原公園みどり部から花の苗をもらい、園庭に植えて育てている。 ・子どもと保護者が地域の活動に参加できるよう、情報を発信している。 ・近隣乳幼児保育施設へ研修会等を案内し参加頂いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣施設との交流として、みどり部からの苗を植え付ける様子の画像とともに、お礼のお手紙を渡す。 ・地域の方のボランティアを依頼するため職員会議で検討したり連絡を取ったりしていく。 ・近隣乳幼児保育施設へ研修会等を案内し参加を呼び掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・郵便局に行って切手を買って「町の先生」へのお礼状をポストに投函して送付したり、お花屋さんに行って花の苗を買い園庭のプランターに植え付けたりして新しく近隣施設との交流を行った。今後も近隣施設で活用できる所を増やしていきたい。 ・地域の方々と一緒に遊ぶ機会を通して子ども達の喜ぶ姿が見られた。今後は計画的に年間を通しての交流の機会を設けていきたい。 ・ささはらこども園が所属しているFブロック外や私立の保育施設の方々の研修会への参加があった。次年度も広く参加を呼びかけていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・郵便局に行って切手を買って「町の先生」へのお礼状をポストに投函して送付したり、お花屋さんに行って花の苗を買い園庭のプランターに植え付けたりして新しく近隣施設との交流を行った。今後も近隣施設で活用できる所を増やしていきたい。 ・地域の方々と一緒に遊ぶ機会を通して子ども達の喜ぶ姿が見られた。今後は計画的に年間を通しての交流の機会を設けていきたい。 ・ささはらこども園が所属しているFブロック外や私立の保育施設の方々の研修会への参加があった。次年度も広く参加を呼びかけていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・笹原自治会でも様々な行事があるため安全面を十分に考慮した上でぜひ参加していただきたい。音楽会やささフェスは継続して活用してほしい。笹原公園での蝶の観察会や昔遊び大会も活用していただきたい。 ・地域の方の優しい声かけで子どもの意欲が高まることもある。 ・地域の交流の場を利用したいが知らないことが多い。情報発信に力を入れてほしい。 ・近隣施設を訪れることで地域の道や施設を知る機会になる。就学に向けてもとても良い機会だと思う。 ・小学校を会場にして行われる行事もとても多い。ぜひ活用してほしい。 ・情報発信の仕方は今後も工夫して行ってほしい。
	<p>備考</p>	<p>アンケートの回収率が低い。改善の余地があるが匿名性であることで正直な気持ちで答えられるのではないかと。icuco のお知らせの特性上一度埋めると忘れてしまうことがある。</p>			

<p>学校関係者評価総括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人一人を大切に丁寧な保育が実践されている。 ・様々な体験活動を通して子どもの学びにつなげている。 ・情報発信や園での様子を知る機会の充実が求められている。 ・小学校との接続、地域交流について今後も取り組んでほしい。 ・職員間での情報共有、連携のさらなる強化を進めてほしい。
------------------	---

<p>次年度に向けた重点的な改善点 今後取り組むべき重点的な課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行事等を求め、期待する保護者の思いは十分受け止めた上で、教育・保育要領の改訂による保育の変化、子どもの主体性を大切に考える教育・保育について理解を得られる発信を今後もし続けなければならない。
--	--